

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2023年3月1日 234号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



カナン牧場にて。9月8日



チャパボラTシャツを着て全員集合。10月22日



30kgの袋を船からトラックへ。9月19日



同じ一期生の苑真さんと玲枝さん(右)。玲枝さんと米国から来た奉仕隊員(紺シャツ3名)とチャパボラ一期生2陣組(後列)

チャパボラ青年、何をレダで得たか？

チャパボラ（チャコ・パンタナール・ボランティア）第一期生は、1陣4名が昨年7月初旬に、2陣5名が8月下旬に日本を出発しました。そしてレダでの活動期間を終えて帰国するにあたり、恒例のアンケートに答えていただきました。全9名からの回答を、今号から何回かに分けて掲載いたします。第一回は李玲枝（イ・ヨンジン）さんの回答です。

Q レダに初めて到着した時の印象は？

A 全体的に白くて、綺麗な建物で、2階のテラスを見た時は韓国のチョンピョンみたいだと思いました。空と大地と川と全てがひらけていて、心もオープンに自然を感じました。

Q レダでは何を担当していましたか？

A 食料管理と広報です

Q レダで最も苦心したことは、何ですか？

A 神様との出会い、そして自分との出会いと闘いを通して向き合うことでした。

食料管理を担当して、長年担当されていた大和田先生から仕事を引き継ぐことになり、色々あったので、一言で表せば大変でした。引き継ぎもこれで大丈夫なのかと心配な中で、一人で担当することになり、不安で、やるしかない中で、自分がなぜこれをやっているのかとわからなくなることもあり、周りの兄弟と比較し、自信が持てない自分がいました。

広報については、やりたいと言って任命されました。でも色々始めてみるもの、食料管理の仕事をしたいたりするのに精一杯で、なかなか両立できず、動機を見失い、広報にも力を注げない自分に葛藤しました。

そんな自分と向き合うことが苦しくて、逃げたいと思う気持ちも何度かありました。心配し、支えてくれる兄弟姉妹たちの愛にも救われましたが、それだけでは限界があることに気づきました。限界を超えていくには、どうしたらいいか。その壁に当たった時に両親と電話する機会が増えていきました。折っても、み言を読んでも相対できず、闇雲に自分に葛藤してしまっていることを素直に両親に話しました。

そこで気づいたのが、もっと自分は甘えていいし、愛されているということ。そこに改めて気付かされたとき、自分に葛藤するのではなく、素直に自分の思いを受け止めて、その上でどうしていきたいかと、心情を整理できるようになっていきました。（二面に続く）

レダ基地スナップ



パカーの人工孵化に奮闘中。1月28日



オリンポ経由で帰国の途に就く、チャパボラ第一期生1陣4名を見送る。2月1日



その2人と共にエスペランサ村へ。2月6日



オランダから来た2人の訪問者と岩澤所長。



岩澤所長が21年の世界ミッションを語る。



アメリカから到着したGPAチームを皆で歓迎。2月12日



おいしいダッチパンケーキ。本場の味をごちそうさん。2月7日



GPAチームと共に水揚げしたばかりのパカー。2月13日



パカーを運ぶ源田君。2月7日



一人一人に贈る感謝の色紙。

チャパボラ(一面より続く) 整理すると行動することが見えてきて、それを一つ一つ行動すると自信につながっていくことができました。今も意識して実践しないと心音が浮き沈みしてしまうことが課題です。課題を解決するには、自分自身が神様と出会い、自分の中に神様を定着させることであると、両親やみ言を通して気づかされました。

残り期間もわずかになりましたが、神様と出会いたい、その思いを胸に、最後まで諦めずレダでの歩みを頑張っていきたいと思います。

Q レダで最もうれしかったことは何ですか？
A かけがえのない兄弟姉妹たちと出会い、共に生活できたことです。青年奉仕隊で出会ったアメリカ、パラグアイのメンバーとは、作業したり、いろんな場所に行ったり、言葉は違えど、互いの文化を学んだり、心情を共有したりすることができました。

先生方や日本の青年メンバーとは、この半年間、助け合ったり、語り合ったり、時には涙を流したり、たくさん笑ったり、本当に思い出がたくさんありました。随落性もあるからこそ、葛藤もあったけれど、それもすべて成長する機会を与えてくださった神様の愛だと気づきました。家族のように過ごしたこの日々と出会いを、人生の1ページにできたことが本当に嬉しいです。

Q 今後の抱負をどうぞ。
A 神様との出会いを軸に、神様が願われる場所で、世界中の愛する兄弟姉妹たちとの繋がりを大切にしていきたいです。

Q 日本と世界の皆様に、何でも一言どうぞ。
A レダは今、変革の時なので、外的には大変なことが多いと思います。そこにあきらめずに向き合っていくことで、内的に整理されていく場所であり、神様の恩恵が深い土地です。皆さんレダを応援してください。そして一度は訪れてみてください。💜

レダ開拓の理念を未来まで

大和田法生(おおわだのりお)



(1月21日の定例集會における大和田氏の報告より抜粋)

●**召命** 私がレダプロジェクトに参加することになったのは、1999年9月、南米パラグアイのフエルテ・オリンポ市にある研修施設で行われた、40日の釣りの修練会においてでした。その修練会には百名前後の方々に参加していました。毎日するのは釣りで、何人かずつ小さなボートに乗り、ドラド、スルビ(またはピンタード)、パクー、そしてボガを、それぞれ40匹、計160匹以上釣るというものでした。その修練会も終盤に差し掛かったころ、研修施設に文先生(総裁)夫妻が来られ、この時初めてレダの開拓をするのだと言われました。修練生の半分は日本に帰って経済的な支援をし、残りの半分は現地レダで開拓を行なうことが願われました。

これを受けて、13名か14名の者がボートでレダに向かいました。私たちがレダのすぐ近くまで来た時、1匹の魚が水面から垂直に3mほど跳び上がったかと思うと、私たちの船の中に飛び込んできました! ●**始動** いやいよレダに着き、そこでの生活が始まりました。人が住めそうな場所を探すと、古びた小さな家が2軒ありましたので、私たちはそこに住み、食事もそこですることにしました。

翌朝から何をしたらいいのかわからない状態で、それでも、行動力のある人たちは、とりあえずこういうことをしたらいいというものを取り上げて、それに取り組みました。当時は川の水で食器を洗い、衣服の洗濯も川で、行水も川でしていました。

そうした中で、初めに取り組んだプロジェクトは、パラグアイ川の河岸に至る道路を造ろうというものでした。造った道路の一部には、後にコンクリート打ちをしました。それが、レダで私たちが最初に取り組んだプロジェクトではなかったかと思えます。

●**建築** それから1か月ほど経ったころ、神山先生がアスンシオンから建築技師や作業員たちを連れて来られました。神山先生はあらかじめ立てた計画に従って、着工していきました。建築工事は着々と進み、最初の3年間ほどで、今日レダにある主要な建物のほとんどが造られました。その間、神山先生と、共に働いた方々のご苦労は並々ならぬものでした。

●**牧畜** 当時、レダには牛が千頭ぐらいいました。初めの1、2年ほどは西脇先生が牧畜を担当されました。彼が書いた牛の管理データや記録が残っていません。その後任として、私が牧畜を担当してくれないかと、中田実先生から持ちかけられたのでした。現地の青年2、3人が牧童(カウボーイ)として雇われ、私と彼らとで牛の世話をしました。私はまず、牛をきちんと数えることが重要だ考えました。牛は一頭ごとその耳に、番号の記された耳タグを取り付けて管理します。この耳タグの番号で、牛の各個体を照合し、



2003. 12. 18
レダ、2003年12月18日、大和田法生氏と子どもたち。従業員が張られた囲い

確認できた牛の数を合計して総数を出します。その日は、すべての牛を一か所に集めた後、管理用の狭い路を歩かせ、耳タグの番号を記録するので、従業員が張り巡らされた囲い

場)には予防接種や計測用に牛の狭路があります。こうして牛の総数が減っていないかどうかを確認しました。牧畜で私ができることはそのぐらいかなと思います。力を入れていたのです。レダの牛を集める必要がある時は、馬を乗りこなす牧童たちを集めてもらいました。私もその時に乗馬を習いました。●**負傷** 牛に慣れてきたと思った頃のある日、雌牛から搾乳しようとした。それをやるには、その牛をコラールの柵の方に引いて行き、柵に牛を縛り付けるのです。そのために、その牛に鞭をふるって私の意向に従わせようとした。そうこうするうち

に、その牛は、ある時、私のおなかのあたりに頭を付けて、私をズーツと押しつけてきたのです。そしてコラールの柵に私を押しつけました。牛はそれからすぐ去って行ったのですが、私の方はへなへなとなつて地べたにへたり込んでしまいました。そうしてそのままじっとしていましたが、誰かが通報してくれました。病院でレントゲンを撮り、医師が言うには、肝臓が一部壊れたということでした。こうして病院には1週間ほど入院し、レダに帰って来ました。帰ってみると、私は牧畜の任から外されていました。

●**労働** 開拓初期の建築資材はアスンシオンや他の場所から船によって運ばれてきました。木材、セメント、砂利、鉄筋、レンガ等々です。そうした資材を船から降ろすのは、すべて人力でした。資材を積んだ船が到着すると、レダにいる男という男は皆、一斉に出動し、その荷下ろしをしたのです。日本では考えられないほど、原始的な作業環境でした。また、レダではヤシの木を伐ることがしばしば必要になります。男という男はことごとく、ヤシの木を斧で伐るので、その作業のしんどいこと、並みのものではありませんが、一本のヤシの木を倒すまでひとり斧をふるうのです。一本伐ったら終わりではありません。一人で何本ヤシの木を切り倒せるかで、その人が評価されたほどでした。

こうした作業をした後は、日本では感じたことのない感覚を、靈魂と肉体とで覚えるのです。その感覚は、レダの灼熱感覚と同様、実際に体験した人でなければ、わかることはないでしょう。今ではこのような激しい労働は、若い現地従業員や、ボランティアの青年たちに任せようになりました。

●**内務** レダの諸業務が定着期に入り、私が長く担当してきたのは「内務」と言い、浄水場管理、食料管理、工具管理といった類の仕事です。これらも、浄水場は2年ほど前に、食料管理は今私が日本に帰る直前に、チャパボラの若者たちが引き継ぎました。

●**未来** レダの現場では、古参スタッフから若いリーダーたちへ責任の移行が進んでいます。レダ開拓の提唱者、文先生ご夫妻のパンタナール開発の理念を若いリーダーたちに行動と言葉できちんと伝え、彼らがレダプロジェクトをいっそう発展させていくための力となるよう、全生涯を捧げていくつもりです。

第25回ワンデイセミナーのご案内

新緑の爽やかな季節に、本年最初のパンタナール・ワンデイセミナー(一日研修会)を開催いたします。

●日時：4月29日(土・祝) 10時受付、16時終了予定

●会場：国立オリンピックピック記念青少年総合センター センター棟(小田急線参宮橋駅徒歩7分、または渋谷駅西口1番乗り場「宿51」バスで代々木五丁目すぐ)

●参加費：2000円(昼食を含む) 当日受付にて。

参加を希望される方は、メールまたはファックスで、下記の当法人事務局までお申し込みください。(応募用紙の請求も同事務局へ)

●共催：一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

プログラム(予定)

- 「レバランド・ムーンの思想とレダ開発」講師：柴沼邦彦(当法人理事)
- 「レダにおける植樹活動」高津啓洋(NPO法人地球の緑を守る会代表理事)
- 「レダプロジェクトの展望」中田欣宏(当法人代表理事)
- レポーター：帰国したばかりのチャポラ青年のレダ体験報告
- 分科会(各講師と質疑応答・懇談)



センター棟

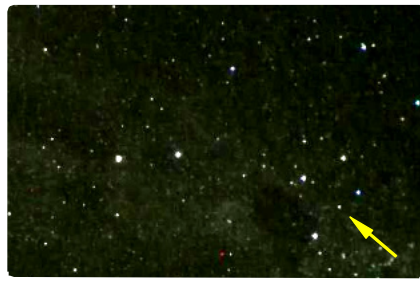
★「指南役」をつとめた「南十字座」

皆様は、「南十字星」や「サザンクロス」という名前をお聞きになったことがあるでしょう。そして、南の国に行ったら、ぜひ見たい星だということも。でも、南十字星という単独の星があるわけではありません。あるのは「南十字座」という星座です。もちろん、レダではきれいに見ることができません。

南十字座は、全天に88座ある星座の中で、最も小さい星座です。ここで星座の大小とは、地球から見た全天の面積に占める各星座の割合を言います。南

十字座は最も小さな星座ですが、歴史的には大切な役割を担ってきました。南十字座は「天の南極」の位置を素早く知ることが出来る目印になるからです。昔々、まだ羅針盤が発明されていなかった時代、大海原を航海する船乗りたちは、晴れた夜空の南十字座を見ていました。その十字の縦線を線の下方向へ4・5倍に伸ばすことで、天の南極の位置を知り、針路を定めることができたからです。言わば、南十字座は航海士たちの「指南役」だったので。

星座はすべて、見る時刻、季節、年代によってその位置が移動します。南半球ではすべての星座が一日に360度、天の南極を中心として時計回りに回転しますが、中心である天の南極の位置は当然ながら不動です。同様に、北極星はいつ見てもほぼ天の北極にいます。大切なのは、北極星はいつ見てもほぼ天の北極にいます。大切なのは、北極星はいつ見てもほぼ天の北極にいます。大切なのは、北極星はいつ見てもほぼ天の北極にいます。



さて、南の空を見上げると「十字」のように見える星の配置がいくつか見られます。これら「にせ十字」と本物の南十字座を見分けるポイントは、「ほくろ」にあります。本物は、向かって右の星と、縦線の下端の星との間に、小さな星(ε星)上図矢印)があり、これを「南十字のほくろ」と呼びます。この「ほくろ」の位置と大きさをしっかり覚えておきましょう。

北極星は、北斗七星やカシオペア座を目印にして容易に見つけられます。しかし、どんな星も空が真暗に曇っていたら見えません。羅針盤の発明がどれほど画期的であったか分かるというものです。そして現代の人類は、GPSによって精密な位置情報を得られるようになりました。夜間に星明かりを頼りに飛ぶ渡り鳥よりも、人類がようやくこの一点では優位に立ったと言えるかもしれません。

皆様はレダに行かれましたら、星が降ってきそうな空を見上げ、広大な宇宙に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。そして南十字座を見つけてください。(写真：レダ研修所テラスにて、山崎茂章氏撮影)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

支援金振込口座：ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール:office@asd-nsa.com

ホームページ:https://asd-nsa.com

Facebook:https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

「日陽園便り」は Facebookで

日陽園の最新ニュースは、Facebookを利用してレダの活動現場から発信しています。

その主力を担っているのが、チャポラ(チャコ・パンタナール・ボランティア)たち。若者たちのフレッシュな感性によって発信されるニュース、写真、動画などを、ぜひご覧ください。



コメント欄から、皆様の感想、励ましなどのメッセージを、レダの人々へ送ることもできます。

https://www.facebook.com/groups/1816339478591894/ (ご利用になるには、Facebookの個人アカウントが必要です)

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



https://asd-nsa.com/sk/